

「学校のきまりを考える」 2

新聞に「ブラック校則」といった文字が載ることがある。学校によっては現行する校則が、現在の社会状況に合わないものもあるようだ。あるべき中学生の姿は変わっていないが、中学生をとりまく環境は変わってきている。さらに、多様性が広く認められていく中で、以前と同じでは難しい。本校でも、今年度の生徒手帳の記載の一部に修正が生じ、削除した経緯がある。そこで年度当初より、生徒会を中心に、「青葉プロジェクト」として校則を含めて、よりよい学校生活になるための話し合いの場をもたせている。個々の校則の目的が分からないまま、規則だからといって守っているのではなく、目的を理解しながら、自らすすんで規則を守ろうとする規範意識を高めたいと考えている。

今月4日に行われた代表生徒交流会では、生徒会長が「青葉プロジェクト」を元に発表を行い、他校の情報を得る良い機会になった。そして、それが生徒朝礼での発表につながった（昨日の「つぶやき」を参照）。生徒一人一人の校則に対する考えはそれぞれだが、生徒会ではみんなが納得して、きちんと守っていく校則にしたいという思いがうかがわれる。先日、中央委員会で衣替えの期間廃止のことが議案にあがり、ネクタイやリボンをどうするか話し合われた。いろいろな意見があったが、全体で集まるときや外部の方が来るときは着用し、それ以外の場面では選択制とした。忘れることを避けるために常にカバンの中に入れておくというルールを加えた。来月、2週間を試行期間とした。

どんな集団でも、集団としての質の向上や秩序の維持などをするために、きまりは必要だ。それは集団に所属する人たちを守ることにともなる。そして、今回の取組のように、きまりを考えることは集団の成長につながるものである。ただ、学校のきまりは学校の教育目標や教育方針を達成するために必要なものであり、生徒だけの考えで決められものではない。教員はもちろん、保護者や地域の願いも考慮したものでなければならない。引き続き、生徒のみなさんが、充実した学校生活になるよう、生徒の活動を大切にしていきたい。

11月25日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 前回と同じように、4、5、5、6、7の数字が書かれた5枚のカードがあります。この中から3枚のカードをひいて、順に並べました。600以上の数字は、全部で何種類できるでしょうか。